

(関連：朔東から第 35 号：朔東は花盛り！)

北海道は最高の時季である。暑くも寒くもなく、本州も大半が梅雨に入ったけれども梅雨すらもない。十勝の日照時間の長さ感謝せずにはおれない。秋撒き小麦畑は緑が密になり、植え付けられたビートやジャガイモ次第に葉が大きくなりつつある。更には色々な畑作物が植えられ、生育を早めている。また、牧草畑の緑も日増しに濃くなりつつある。十勝には少ないけれども水田には水が満々と張られ、一部には田植えがなされている。何れにしろ、管内の平野部が一面の緑に覆われるのも時間の問題だ。



(永井農場にて)

北海道遺産に登録されているラワン蒔も出荷の時期を迎えている。今年は例年よりも少雨の為か生育が遅いと先日訪れた永井農場主は話しておられたが、それでも中々のものだ。あれほど大きいにも関わらず、食すると柔らかいから不思議だ。食物が北海道遺産に指定されているのもこのラワン蒔のみである。刈り取ったばかりのラワン蒔を西京漬けにしたものを庶務の前任陸曹に貰ったけれども、これがまた美味で、酒の肴に最高だ。

さて、花も盛りを迎えつつある。先日、常日頃、庭や垣根を見事に花で飾っておられる我々の協会の会長でもある商工会議所会頭のお宅を訪ねた。確かに御本人が自慢しておられるように流石と恐れ入った次第だ。休みにはゴルフか庭弄りを旨としておられるとのことだが、さも何という気がした。

帯広駐屯地のメイン道路の縁石部の花壇にも、先般花の植栽が終わり、毎朝夫々の部隊が心を込めて、水をかけ、ゴミを拾い、雑草を抜き、盛りを過ぎ枯れた花を摘んでいる。毎朝綺麗な花を咲かせている。是ほどの手入れを行っているからだろう、矢臼別演習場での訓練のために、仮泊する本州以南の部隊の隊員諸官から、極めて好評だ。

毎朝のジョギング通勤途上の歩道の花壇も町内会のご老人方であろうか、総出で、草を抜き、土を掘り起こして、サルビアを植えておられた。花は人を幸せにする効用があるのだろうか、終始見ていた訳ではないが、和やかな雰囲気が感じられた。同じような光景は、帯広だけでなく、管内のあらゆる街で見られる。まるで、短い夏を精一杯楽しもうとするかのように。

緑ヶ丘公園内のジョギングコースには、一方は野草園、他方は雑木林の部分があるが、その林の中に、淡黄色・橙色のエゾカンゾウが幾輪か花をつけていた。そういえば、原生花園の湿原のお花畑もこれからが最高だろう。(朔東から第 70 号に湿原のお花畑を掲載)

街中には、夫々の家の花壇にとりどりの花が咲き乱れている。ある所では、薄紫から濃

い紫までのルピナスが見事なグラデーションを為している。

音更には大きな花時計があり、間もなく満開になるのではなかろうか。北海道有数の温泉街である十勝川温泉街全体が花で覆われるハナックフェスティバルが 6 月の下旬から一月間実施される。一見の価値もあろう。展望台に登って雄大な十勝平野を感じて頂くのも良い。

札幌に公務出張した。市内至る所にポプラの綿毛が舞っており、柳雪との言葉もあるように、夏に舞う雪と形容したくなる。ポプラは柳科の植物で、種子を付けた綿毛は涼風に乗って飛び回る。北海道ならではの風物詩である。不思議なことに当地には少ない。帯広駐屯地にもかつてはポプラ並木があったやに聞いたが、台風に倒されたらしい。